

令和 5年 3月

# 藤田麻理子 学位論文審査要旨

主 査 山 崎 歩  
副主査 松 浦 治 代  
同 網 崎 孝 志

## 主論文

Factors influencing parenting stress in the mothers of infants and the effects of artwork production

(乳幼児をもつ母親の育児ストレスに関連する要因とアート作品制作の効用)

(著者：藤田麻理子、菅井敏行、吉岡伸一)

令和5年 Yonago Acta Medica 66巻 159頁～170頁

## 参考論文

1. B市における高齢者サロン参加者の役割認識とその関連要因

(著者：吉川優子、小笹美子、榊原文、藤田麻理子)

令和3年 島根大学医学部紀要 43巻 33頁～40頁

# 学 位 論 文 要 旨

Factors influencing parenting stress in the mothers of infants and the effects of artwork production

(乳幼児をもつ母親の育児ストレスに関連する要因とアート作品制作の効用)

乳幼児をもつ母親の育児環境の孤立による育児ストレスに対する母親への支援の重要性が指摘されている。子育て中の母親の育児ストレスの緩和や育児支援の充実を図るためには、母親の育児ストレスに関連する要因を明らかにすることが重要である。育児に関するストレスは、母親の不安や抑うつ予測要因であることが明らかにされており、母親の抑うつは児のネグレクトや虐待と関連することも報告されている。また、育児ストレスは、親の感受性の低下、および子どもに対する侵入と敵意の増加と関連していることを示した研究報告もある。このことから、育児ストレスへの対処法として、母親の感受性を育む方法や、母親が子どもとの適切な心理的距離感をもてる機会や方法の検討が、母親の心理的健康の維持・向上のために必要であると考えられる。近年、心身の健康を回復する心理療法として、さまざまなアートでの表現活動、創作活動に従事するアートセラピーが注目されている。本研究では、母子で手軽に取り組める手形アートに着目し、手形アート作品制作に参加した母親を対象に、制作方法や作品制作の自己評価と母親の育児ストレスとの関連を明らかにすることを目的とした。

## 方 法

手形アート作品制作講習会に参加した母親140名を対象に2020年7月～10月の期間に無記名自記式質問紙調査を行った。対象者を制作方法によって2群に分け、単独制作をした3歳未満の子の母親70人（A群）と3歳以上の子と共同制作をした母親70人（B群）とした。調査内容は、基本的属性、作品制作の自己評価7項目、育児負担感指標とした。分析は記述統計を用いた。また、属性、作品制作に関する自己評価、育児負担感指標の得点を2群間で比較検定を行った。育児負担感指標は、育児負担感合計得点、社会活動制限得点、児に対する否定的感情の認知得点を算出した。対象者全体、A群、B群それぞれにおいて、育児負担感得点を従属変数として重回帰分析を行い、育児負担感得点に関連する要因を分析した。

## 結 果

有効回答はA群65名とB群54名の119名（有効回答率85%）であった。母親の年代はA群B群ともに30歳代が最も多く、子の年齢の平均はA群が0.94歳、B群は4.44歳、子のきょうだいがいる者はB群に多かった。育児負担感合計得点と児に対する否定的感情の認知得点がB群に高く、社会活動制限得点に有意差は認められなかった。子の年齢別比較においては、0歳児に比べて、3歳、4歳、5歳児の母親の否定的感情の認知得点が高かった。A群においては、0歳児に比べ、1歳児の母親は社会活動制限得点が高く、2歳児の母親に否定的感情の認知得点が高かった。子のきょうだいがいる母親は否定的感情の認知得点が高かった。作品制作の自己評価は、7項目とも評価が高く、「講習会に対する満足感」に「とても満足した」と回答した者の割合がA群に多く、「作品に対する自信」に「とてもうまくできた」と回答した者の割合はB群に多かった。重回帰分析の結果において、育児負担感得点に関連する要因は、対象者全体とA群においては子の年齢と子のきょうだいの有無であった。B群においては作品制作の自己評価の「作品に対する自信」に関連が認められた。

## 考 察

本研究において、幼児期後期の子と共同で作品制作をした母親に育児負担感得点が高かったが、制作方法と育児負担感得点との有意な関連は認められなかった。子の年齢別比較において幼児期後期の子の母親に育児負担感得点が高く、乳児期から幼児期前期の子にきょうだいが「いる」母親は「いない」母親に比べて育児負担感得点が高かった。これらのことから、乳幼児をもつ母親の育児ストレスには、子の年齢と子のきょうだいの有無が関連していると考えられた。対象者全員に作品制作の自己評価7項目すべての評価が高く、手形アート作品制作は、母親にとって好ましい有意義なこととして認識されたと考えられた。共同制作した母親において、育児負担感得点と「作品に対する自信」との関連が認められたことから、作品に強い自信がもてる者ほど育児ストレスが低いことが示唆された。

## 結 論

乳幼児をもつ母親の育児ストレスには子の年齢と子のきょうだいの有無が関連することが示唆された。乳幼児期において特に3歳から5歳の幼児後期の子をもつ母親に、児に対する否定的感情の認知に関する育児ストレスが高いことが示された。本研究においては、アート作品制作を3歳から5歳の子と共同で行った母親の育児ストレスと「作品に対する自信」との関連が示唆された。